

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	学習資料館管理運営費				
担 当 課 係 名	学習資料館 課	学習資料館 係	作成者	高橋眞行美	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備			
		主要施策	学習資料館の充実		
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	5 目	学習資料館及び イベント交流館
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市総合情報センター条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	市民及び地域住民
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	市民の自己学習の奨励、手助けをする施設 利用者のニーズに合わせた環境づくり（配架変更）等、地域住民が気軽に足を運べる施設をめざす。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	積極的な図書館研修又運営協議会委員の意見を取りいれ利用者が気軽に心豊かに過ごせる環境づくりを推進する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	図書館開館総時間数	目標	時間	2,652	2,656	2,626	
			実績	時間	2,652	2,656	2,626	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	貸出冊数	目標	冊	70,000	70,000	70,000	
			実績	冊	60,300	57,860	59,305	
			達成度	%	86.1%	82.7%	84.7%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				427	502	448	
	人 件 費 (B)		—		7,853	8,071	7,925	
	職 員 数		—		1.00	1.00	1.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				8,280	8,573	8,373	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他				77	57	86
		一 般 財 源				8,203	8,516	8,287
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		3,122	3,228	3,188
市民1人当たりのコスト(円)		—		260	273	270		

【事務事業の今までの成果】

市民の生涯にわたる自己学習の機会を創出するため、市民の要求にこたえ、情報資料等を提供している。館内に平台展示コーナーを設け、色々なテーマ（季節）にあった書籍を毎月展示替えし、利用者に好評をえている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	指定管理者制度の導入及び夕張市の破綻が大きく影響して図書館の経営に危機意識が生じ、積極的な試みがなされている。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	最近では市民参加型の催事が求められている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	今後は、市内小中学校等との連携を図る方策を検討し、更に読書環境整備に努めたい。
	B 1	見直しの上で継続（拡大）	
	B 2	見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3	見直しの上で継続（縮小）	
	C 1	大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2	大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3	大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E	終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	継続可能な管理運営のあり方と利用者の利便性の確保の両立を常に検討しつつ、継続すべき事業と考えます。

一次評価診断図

